

救命救急士の空自隊員が日本体育大学学生に講義

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤 一 空尉）は5月28日（火）日本体育大学保健医療学部（横浜市）3年生の講義「コマを利用し、航空自衛隊小牧基地航空機動衛生隊から近藤2空曹を招いて「航空搬送について」の講義を行った。近藤2空曹は救急救命士の資格保持者であり、資格を活かし実際の現場で勤務をしている現状を発表してくれた。日本体育大学での講義は回数を重ね今年で4回目の実施となった。

航空自衛隊の先輩である近藤所長より紹介を受けた近藤2空曹は、約80名の学生を前に重篤な傷病者を航空機により輸送する場面での机上医療を実施する機動衛生ユニットについての説明や、医師、看護師、救急救命士、管理要員の4名を基準にして搬送活動をしており、医師がいる環境で患者対応ができることは救急救命士にとって大きなメリットであること等、実体験に基づいた具体的な活動内容が次々と語られた。

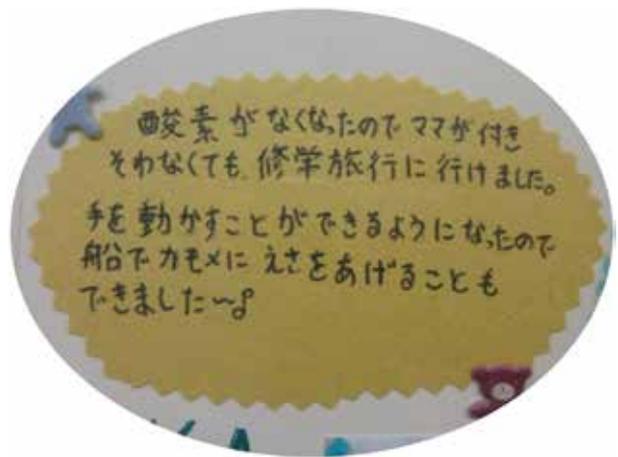
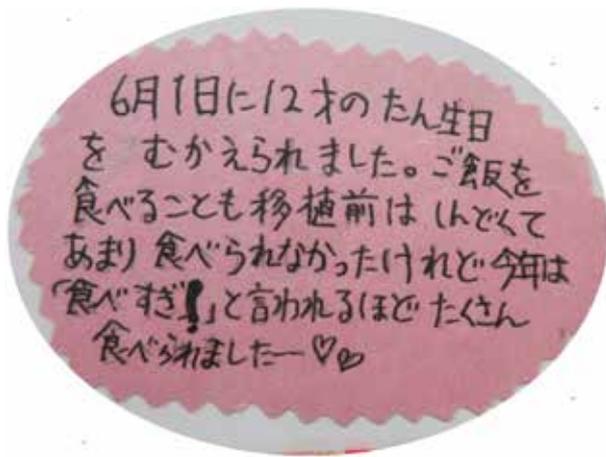
その中で、近藤2空曹が今までで一番印象に残っている肺移植が必要な10歳の女の子を対応した時の話があった。この時、初めて症例を担当した近藤2空曹は、意識がまばらで会話もままならない状態の女の子を目の前にして、搬送があったという間に終了してしまっただよに感じたと言った。その数ヶ月後に搬送した女の子からお便りが届き、お母さんの付き添いもなくなって修学旅行に行けたこと、ご飯を沢山食べられるようになったこと等、色々な思いが綴られていたことを教えてくれた。そして実際に送られてきた手紙も披露してくれた。

終了後のアンケートで学生達からは「とても濃い内容の講義だった」「航空機動衛生隊の仕事内容を聞いて良かった。自衛官の受験を考えてみたい」と嬉しい感想があった。また、熱い講義を行ってくれた近藤2空曹に対して「人の為に」という強い信念を生で聴けて、救急救命士資格取得に向けてモチベーションが上がった」との嬉しい言葉もあった。命の重みを感じる職業について、多くの共感を得てもらえた貴重な時間となった。

市ヶ尾募集案内所は「自衛隊の仕事のついて深く理解してもらえる貴重な時間だった。学生達が目指している救急救命士資格を持つ講師を招くことができたことが大きかった。今後も学生の希望を反映した講師を招き、自衛隊への志願者獲得を進めていきたい」としている。



近藤2空曹が学生達に実体験を講義



この年具でやっていることは、ふつうの人はふつうに出来ることだけど、私は、その「ふつう」が出来なかったの。出来るようになっていくことがとても、うれしく感じます。去年は出来なかったことが今年が出来たり、「今の私なら出来るかも?」と、思うことも増えてきました。酸素をしいたときは、「明日も苦しい日を過ごすのか」と、1日1日が長く感じたけれど、今はその逆で「明日は何をしようかな?」と考えるようになりました。やりたいことがありすぎて、旧がすぐ過ぎちゃいます。今年も、飛行機にも乗ってみたいです! 海外にも、早く行ってみたいのでーす♡

搬送された10歳の女の子からお便り